

1月2日(火)

神様だけを信頼する

聖書朗読 詩篇 33:16~22

見よ。神は私の救い。

私は信頼して恐れることはない。

ヤハ、主は、私の力、私のほめ歌。

私のために救いとなられた。

イザヤ 12:2

ある有名なカントリー・ミュージック・シンガー（編注：チャーリー・ダニエルズ、1936-2020）によると、アメリカを守っているものは2つだけで、それは全能の神様の恵みと合衆国軍隊だそうです。

彼は、おそらく詩篇33:16~17の御言葉を読んでいなかったのでしょう。『王は軍勢の多いことによっては救われぬ。勇者は力の強いことによっては救い出されぬ。軍馬も勝利の頼みにはならない。その大きな力も救いにならない。』

主がイスラエルを戦いに遣わされたとき、イスラエルの民を守るのの主であることを知らせるために、ギデオンの軍勢を減らされました。（参照：士師記 7:2~4）ダビデは、イスラエルとユダの人口、兵士の数を数えて、神様ではなく国力を頼るという罪を犯し、主から罰せられました。（サムエル記Ⅱ 24章）ヨシャパテ王がユダの人々を率いて、断食し、ひたすら主に祈ったとき、彼らは戦わずして戦いに勝利しました。（歴代誌Ⅱ 20:1~30）

これらすべての物語において、主は民にご自身だけを頼ることを教えられています。私たちはその教を学んだでしょうか。もちろん従軍する人々には敬意を払いますし、奉仕してくれていることに感謝しています。でも、彼らを究極の守りとして頼っているわけではありません。私たちの神様だけが、私たちを救ってくださるのです。

讚美歌 280

祈り 主よ。私たちの希望はあなたのうちにだけあります。あなたの尽きることのない愛で私たちを包み込んでください。イエス様の御名において。アーメン。

テネシー州 ナッシュビル
ゲイリー・ホロウェイ

1月3日(水)

軽はずみなことを言わない

聖書朗読 詩篇 39:1~5

私は言った。私は自分の道に気をつけよう。私が舌で罪を犯さないために。

私の口に口輪をはめておこう。悪者が私の前にいる間は。 詩篇 39:1

軽はずみなことを言ったり、考えなしに話してしまったりする度に、卵を1個とっておくとしたら、冷蔵庫が腐った卵でいっぱいになるだけでなく、家じゅうが（敷地全部ではないにしても）悪臭を放つことになるでしょう。この詩篇の作者（おそらくダビデ王）も、同じような口の軽さゆえの弊害を経験しました。彼は、自分の強靱な口の筋肉に、どうにかして口輪をかけたいと思いました。

同時に、この詩篇の作者は、主の義を弁護するべき時にも、自分が沈黙を守り、黙っていたことを告白しました。彼の舌は、麻痺したかのように固まってしまったのです。ようやく口を開いたとき、彼は後ろめたい思いで激昂し語りました。

イエス様のすぐ下の弟ヤコブは、人間の舌について次のように書いています。『しかし、舌を制御することは、だれにもできません。それは少しもじっとしていない悪であり、死の毒に満ちています。』（ヤコブ 3:8）ヤコブは賢明にも、清い心と、よく考えてから打ち明ける時間を持つようにと奨励することで、私たちが神様や周りの人たちの平和の道へと導いてくれます。

イエス様は深い悲しみの中にあっても、御父のみこころに従われました。イエス様が語られたお言葉から、そのことがわかります。私たちが聖書を読み、じっくり考え、祈るとき、主は、私たちが自分の舌を制御し再訓練するのを助けてくださいます。今日のデヴォーション（編注：日々聖書を読み、祈り、神様と交わること）で、神様が、私もイエス様にならって、軽はずみなことを言わないようにして下さるよう祈ってください。

讚美歌 659

祈り お父様。今日、私の舌を使って、あなたを賛美し、あなたにご栄光を帰し、周りの人たちに、あなたをほめたたえるよう勧めることができるように助けてください。イエス様の御名において。アーメン。

アイオワ州 クレグ・ホーン
ロバート・ブレア

1月4日(木)

どんな状況にあっても

聖書朗読 詩篇 40:1~5

私は切なる思いで主を待ちのぞんだ。

主は、私のほうに身を傾け、私の叫びを聞き、 詩篇 40:1

大半の人には朝の習慣があります。起きてから、コーヒーか紅茶を飲むまでは何も考えない人もいますし、ベッドの中で、時計を見て時間を気にしながら、窓の日除けの影を見ながら、今日やることのリストをチェックする人もいます。それぞれが自分の小さな世界の中で朝を迎えます。しかし、すぐに、目の前に押し迫るやらなければならないこと、健康面、また目の前にある決断しなければならない事柄に心が奪われ、ただただ目の前にあるしなければならないことを機械的こなしていこうとしてしまうのです。

しかし、朝、目を覚ましたダビデは、自分が問題を抱えていることを知っていました。彼には助けが必要でした。ダビデはどれくらいの間、この問題を抱え続けていたのでしょうか。数時間でしょうか、1日でしょうか。それとも、もっと長く悩んでいたのでしょうか。ダビデは神様に叫びました。それが、その日、彼が最初にしたことでした。2節を読むと、ダビデが泥沼に沈み、滅びの穴に感じているように感じていたことがわかります。

状況を変えなければならないのに、出口が見つからないような所に追い込まれたことはありますか。声を上げましょう。神様に祈りましょう。ダビデはそうしました。ダビデは『切なる思いで主を待ち望』みました。そして、神様はダビデの叫びを聞いてくださいました。困難に遭う時、私たちはパニックになったり、怒ったりすることがよくあります。しかし、ダビデは、切なる思いで主を待ち望むことを勧めました。神様は『定められた時に』(ローマ 5:6) 事をなしてくださいます。

どんな状況にあっても、神様からの答えを辛抱強く待ちたいと思います。神様は、ご自身の民を滅びの穴から引き上げ、全ての者の足を巖(いわお)の上に置いてくださいます。

讚美歌 520

祈り 親愛なるお父様。私たちを恐れからあなたの平安へ、パニックから忍耐へ引き上げてください。イエス様の御名において。アーメン。

オクラホマ州 タレクア
ユニー・パックストン・エドワーズ

1月5日(金)

命には命を

聖書朗読 詩篇 49:1~15

人は自分の兄弟をも買い戻すことはできない。自分の身代金を神に払うことはできない。—たましいの贖いしろは、高価であり、永久にあきらめなくてはならない。—

詩篇 49:7~8

聖書の中では「身代金」や「贖い」と言う言葉は、同じような意味で使われます。元々は、何かを、または誰かを買い戻すと言う意味でした。奴隷や囚人の自由を買うというイメージがわかりやすいかもしれません。

詩篇49篇で、著者は身代金または代価を払って、一人の人を死から逃れさせることを引き合いに出しています。著者が示したように、人間でこれができる人はいません。ただ神様のみがおできになります。

私たちが縛られているものは罪です。誰もが逃れられないものです。(ローマ 3:23) 人間が罪に対する罰から逃れることができるのは、贖いの代価として、ご自分のいのちを与えてくださった、神様のひとり子、イエス様を通してのみです。(マルコ 10:45) ローマ 6:23 でパウロが説明しています。『罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。』

永遠のいのちを、自分の力で手に入れたり、買ったりできません。それは贈り物なのです。キリストの中にある者は誰でも、罪と死から贖われたのです。身代金はもう支払われています。身代金で贖われた人ができることは、ただその贈り物を従順に受け取り、神様のみこころに従うことだけです。

讚美歌 271

祈り 親愛なるお父様。私たちは罪ある者として、身代金を払えない者として、あなたの御前に立ちます。ご自身の意志で、途方もなく大きな私たちの負債を代わりに支払ってくださったイエス様に感謝します。イエス様のお名前によって。アーメン。

サウス・カロライナ州 アーモ
フィリップ・アイクマン

1月6日(土)

セラ(一旦止まる)

聖書朗読 詩篇 50:1~12

知識もなく、摂理をおおい隠す者は、だれか。まことに、私は、自分で悟りえないことを告げました。自分でも知りえない不思議を。ヨブ 42:3

詩篇の著者、アサフ(編注:先見者と呼ばれ、優れた歌手・詩人であった。)は、今日の朗読箇所を書いた時、絶頂期にいました。彼は多くの物について、神様をほめたたえています。神が日の上ること、沈むことを支配しておられること。神様の輝く美しさを。私たちのもとに来て、黙ってはおられない神。全てにおいて義である神をほめたたえています。

そして、アサフは賛歌を続ける前に、一旦止まります。セラ。これはいったい何なのでしょう。"セラ"は、詩篇で何度も見受けられ、71回出てきます。一息つく場所を示しています。アサフは、一旦止まって呼吸を整え、改めて神がどういってお方なのかを思い巡らすことが必要だったのです。

私たちも時として一旦止まって神がどういってお方かを考えてみて下さい。アサフが、民の神に捧げるいけにえに対するの神の裁きについて書いています。なぜでしょうか。神は私たちが何かをお捧げしなければ存在できないお方ではありません。神は全てを持っておられ、全ては神からきているからです。しかし、私たちは、その全能のお方を本当に信じているのでしょうか。神が恐れからいけにえをお捧げしますか。それとも、私たちは、神が全知全能のであるがゆえに、全てを感謝して神にいけにえをお捧げしますか。一旦止まって良く考えてみて下さい。私たちが義務のいけにえではなく、感謝のいけにえを捧げる時全てが変わります。

さあ、神に全てを感謝して神をほめたたえてください。トランペットを吹き鳴らしてください。

讚美歌 532

祈り 神様。あなたのことを何と言ったらよいのでしょうか。言葉では不可能です。あなたは、私たちの上におられる方であり、近くにおられる方です。私たちは驚き、息をのみます。あなたは、世界を造られ、支配され、所有しておられます。息を整え大声で神をほめたたえさせてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 アマリロ
ベン・メレネス

1月7日(日)

暁を呼びさましたい

聖書朗読 詩篇 57:7~11

私は歌い、ほめ歌を歌いましょう。私のたましいよ。目をさませ。十弦の琴よ。立琴よ、目をさませ。私は暁を呼びさましたい。詩篇 57:7c~8

父の指導のもとでカウボーイとして家畜の世話をしていた頃、日が昇る前に馬に鞍(くら)を乗せる朝が何度もありました。「日のある時間を無駄にしない」ように、父と私は夜明け前に牧場に行くことがよくありました。羊や牛を集めて柵に入れるためです。日中の温度が上がると難しくなるからです。特に羊を集めるには、朝早く始めることが重要でした。気温が高くなると、羊たちを遠くまで歩かせるのはほぼ不可能でした。そういうわけで、日の照っている時間を無駄にしないというルールを守り、日の出から日の入りまで働くことになりました。

今日の聖句の賛美者ダビデとは違って、私は眠い目で暁を迎えたことが何度もありました。当時、私はまだ若かったので、暁のすばらしさをほめたたえるより、眠気との闘いでした。今は、神が造られた暁のすばらしさに注意を払い、神をほめたたえる機会にできなかったことを後悔しています。詩篇57篇では、詩人は、主へのほめ歌で太陽を昇らせたいと思うほどに主への賛美を声高々にうたっています。

あなたがこれを読んでいる時、賛美で日を昇らせるには遅過ぎる時間帯かも知れませんが、『国民(くにたみ)の中にあって』、主をほめたたえるのに遅過ぎることはありません。いつでも神をほめたたえましょう。

讚美歌 讚美歌21 21

祈り 天の私たちの父よ。全ての榮譽があなたにありますように。太陽が出てから沈むまで、私たちへの大なる愛を感謝し、ほめ歌を歌います。あなた



のまことは永遠です。イエス様のお名前前で。アーメン。

テキサス州 グランベリー
クリス・フリッセル